

2013（平成 25）年度市民活動サポートセンター業務・協働管理運営 運営協議会評価集計

（15 人/16 人※運営当事者である指定管理者及び市民活動支援室所属の委員を除く。）

第 2 期後期（2013 年度～2016 年度）がスタートし、前期に引き続いて、指定管理者のさいたま NPO センターの 5 年間の事業計画に基づいた評価基準により評価を行いました。

この集計は、項目ごとに、利用者アンケート、指定管理者とさいたま市市民活動支援室の自己評価などを基にして、運営協議会委員が「ABCD」の 4 段階（A：優れた成果あり、B：成果あり、C：一部改善が必要、D：相当の改善が必要）で評価し、コメントした結果です。

（集計の見方）

- 異なる判断基準を有する各委員の評価結果を尊重するため、点数化せず、「ABCD」それぞれの人数を示しました。
- コメントも各委員の意見を尊重し、統一的にまとめることはせず、内容から、良い点（○）、問題点（問）・課題（課）、提案・希望（◇）に分類・表記しました。
- また、文章中の要点を明確化するため、問題・課題は斜体波線、提案は下線で示しました。
- 項目評価の集計は 14 人、総合評価の集計は 15 人で、一致していません。

I - 1	活動の翼をひろげる（市民の意識の向上と活動のひろがり）	項目評価 (A・B・C・D)
①	潜在層(関心のない市民)の意識の啓発につながったか。	A5/B8/C1
②	関心層のニーズに対応し、活動の理解や参加意識を高めたか。	A9/B5
③	運営や事業は、活動層のニーズに対応し、活動支援や成長を促進したか。	A9/B5
④	潜在・関心・活動各層相互の交流と活動のマッチングを促進したか。	A8/B5/C1
⑤	遠方の地域の市民や団体のニーズに対応する工夫や姿勢を示したか。	A2/B10/C2
総合評価 (A・B・C・D)	A=8、B=7、C=0、D=0	
委員のコメント（提案・意見等）		
○は良い点、 問 は問題点、 課 は課題、◇は提案・希望など		
<p>（①について）</p> <p>○「あつまれおやこ」を開催し、市民活動の楽しさを知る良い機会をつくり、結果として、そこに参加した母親 5 人がクリスマスイベントの企画運営に携わる等、具体的な成果が得られた。</p> <p>○「あつまれおやこ」参加者がイベント企画に携わるよう誘導するアイデアは高く評価できる。個人の欲求を満足させ、更に公共性のある市民活動へ意識を変えているのはすばらしい。</p> <p>○子育て世代・学生層などに工夫したアプローチがあり、成果も見えている。</p> <p>○市内小学校 12 校、7570 枚のチラシ配布によって親と共にイベントに訪れた子がいて、市民活動の啓発につながっている。</p> <p>問個人学習で使用するのは、高校生がほとんどではないか。そうであれば、そもそも<u>市民活動へのアプローチは望めない対象であり、この点で成果を求めるのは難しいのでは。</u></p> <p>○◇「あつまれおやこ」の取り組みは成果が出てよかった。こうした取り組みを、別の分野でも<u>できないか。</u></p>		

(②について)

- 市民活動リポーター・ボランティアなど「巻き込む」企画が実施されている。
- ◇市民活動リポーターが今後より積極的に市民活動に参加するような働きかけをすることが望ましい。

(③について)

- NPO 会計セミナーの実施→参加者・開催回数も多く良かったのではないかと感じる。
- セミナー参加者数・アンケート等から多様なニーズへの対応に努力されていると感じる。
- ◇市民活動団体のアンケート調査・ヒアリングを基にしたトークセッションは、市民活動の基本となる事項であり、すばらしい成果と考えます。この内容を他自治体への啓蒙含め、成果の展開されることを望みます。
- 問 課 ◇市民活動サロンと各セミナーとの関連が不明です。セミナーの充実と多くの出張セミナー開催も検討願います。(同じ内容で、複数回開催してもいいと思います)
- ◇冬の交流イベントの「伝える力・巻き込む力～市民活動の広げ方、進め方」は、市民活動にとって重要なテーマであり、今後もそれを発展させたテーマでのイベント開催を期待したい。
- ◇市民団体自身が「自己診断」で活動の成熟度を評価するシステム（レーダーチャートに落とし込むような）を検討してはどうか。

(④について)

- 問 課 マッチングは当事者だけでは難しい、コーディネータの存在が必須。 サポセンの努力で具体的成果が出ていると聞いている。
- ◇「アートで変身！」は、普段交流のない団体が協力した取り組みとなり、新しい連携の可能性が開けたものとして評価できる。こうした可能性は他にはないか。

(⑤について)

- SNS の活用、各地コミュニティセンターごとのイベント開催等、遠方の団体への配慮が見られる。
- 問 課 サポセンの認知度は自分の住む地域でも偏りがある（市民活動への関与度で）。市内全域に「撃って出る」ことが必要。
- 課 さいたま市も広いので、遠方の団体や個人へのPRをどのようにおこなうかが今後の課題と思える。
- ◇太田窪自治会等のモデルを啓発していく機会をつくる等、10区毎に1つ連携モデル自治会を見つけ出す手立てから入るのはいかがでしょうか。

(全般について)

- 四季折々のイベントを開催したり、市民活動団体調査の結果をもとにしたトークセッション等を開催した事は評価できる。
- 展示コーナー企画は、望ましい利用方法を示す良い機会になったのではないかと感じる。
- 利用者一般、どこに相談したらよいかの点も含めて多岐にわたる相談、内容が読み取れました。誠実に対応され、関連機関等への発信など、企画運営に携わる市民がそこからも得られていること

とはサポセンの強みだと思います。

○一般参加を促す企画ができた。

○**課** 「やれ市民 どこにいるやら 閑古鳥」には苦笑してしまいますね。「市民とは何か」から始めなければならないのは山また山といった現状ですが、ここに本施設の存在意義があります。今回の「市民活動川柳」募集と今後への啓発は有効な手立てです。

○**課** 各層の情報提供、理解、意識関心度は高まっているので、次のステップとしてどのように展開拡大させていくかが課題になる。

○◇ユーストリーム等の配信、その場に参加できなかった市民へも臨場感が伝わります、今後も是非、公開を進めてほしいと思います。(制約などもあるかとは思いますが)

○◇市民活動サポートセンターとスタッフの二人三脚で各団体と接触し、活動内容・企画運営等調査し、探している市民に対して考える機会を提供できたと思います。今後も続けることが大切です。

○◇重点(☆表示)が目白押しのこの項目に並々ならぬ気合を感じます。次年度も継続することが基盤につながります。

○◇立地、空間を活かした企画で、来場者や団体を巻き込む努力し、その成果がでていよう見受けられることは大いに評価できる。特に、市民活動を切り口とした様ざまな事業(調査やセミナー他)の成果が今後の事業展開に活かされ、市民活動の進化と成熟を促す支援につながることが期待される。今後は、「パートナー」として、共に市民活動を盛り上げていかれるような団体や個人との連携協働を進めることが肝要である。

○**課** ◇サポートセンターからの情報発信は非常によく行っていると思います。交流活動についても成果をあげていると思います。ただし、政令市は広く市全体また市外に届いているか、存在感があるかという点はまだかと思っています。広報活動の強化としては、さいたま市や関連団体((公益)さいたま観光国際協会)などとのHPのリンクを張ってください。Twitter、Facebookでの連携も願います。

○**課** 楽しい企画が、日常の活動連携に繋がるか、支援になっていくか、今後も重要な視点、課題だと考えます。

I-2	公益の翼をひろげる（市民活動支援の輪の拡大）	項目評価 (A・B・C・D)
	大学、公益法、生協、労働組合、営利セクター等と連携したか。	
総合評価 (A・B・C・D)	A=2、B=10、C=3、D=0	
委員のコメント（提案・意見等） ○は良い点、●は問題点、■は課題、◇は提案・希望など		
<p>○大学生インターンを「市民活動リポーター」として受け入れ、市民活動の現場をヒアリングを行った。</p> <p>○大学生を市民活動リポーターとして誘導する等、次世代の市民活動の担い手に積極的にアプローチしている点が高く評価できる。</p> <p>○交流イベントにより、公益や公共のあり方についてそれぞれの理念や実践を理解し合えたと思う。</p> <p>○トークセッションを通じて、市民活動の重要性への認識を深め、意識の共有を図った。</p> <p>○コラボさいたま出展参加、企画展示でも相応の成果があった。</p> <p>○大学や企業との連携による展示企画の実施やコラボさいたまへの出展等、各方面との連携についての積極的な展開は評価できます。</p> <p>○公益のあり方等の成果は、交流イベント等他のイベントで十分にあったと思います。</p> <p>○大学の企画参加や企業イベントに参加できた。</p> <p>○■「伝える力・企業に伝える」は問題意識として大変良い企画と思う。まだ「気づき」の段階だと思うが、<u>「企業に当ってみる」力をつける為の支援が必要</u>だと思う。成功例だけではなかなか理解が進まない。</p> <p>○■大学、企業、生協、労働組合、営利セクター等の連携に際して、企画コーナー展示、ワールドカフェ手法、イベントを通じて図られたと思います。<u>更に連携を進めていく手法が必要</u>。</p> <p>●大学との連携は、<u>個人的なつながりからのものか？</u></p> <p>■<u>埼大や芝浦工大など、との連携の拡大の可能性はないのか。</u></p> <p>●<u>労働組合に関する記述が全くない。そもそもどういう連携を想定しているのか、不明であれば、振り返りようもない。</u></p> <p>■行政との縦のつながりの他、<u>横のつながりを輪にしていく活動が必要</u>。</p> <p>■◇大学、公益法人、生協、労働組合等とは、<u>人的交流に留まらず、パートナーシップ協定（協約？）を結ぶなど連携協力関係を具体化し、協働事業を実施するなどより積極的で明確な関係を構築すべきではないか？</u>営利セクターとの連携については、サポセンとの連携（事業の実施など）ではなく、市民団体や他のセクターと営利企業の連携を促し、サポセンを仲介役としたネットワークの中で事業連携を進めてってはどうだろう？</p> <p>○■◇この分野についての取り組みと発想には意義を感じます。大学の関係では、岩槻区でも目白大学が関わっていますが、<u>さいたま市全体として進めるのはいかがでしょうか。</u>（きっとやっているとありますが）<u>支援のテーブルには多様な団体を加えることで1-1の「市民意識の向上と活動のひろがり」と関連してくると思います。</u>そして、<u>ここにこそ行政の力添えが重要ではないでしょうか。</u>行政との連絡調整会議でこのあたりの話が出ているのか知りたいところです。</p> <p>◇学生の参加を促すために、年度当初に各大学に調査やイベント企画などの募集を積極的に行った</p>		

らどうか。

- ◇ボランティアをしている大学生ではなく、様々な研究室の学生に卒論のテーマや研究課題に市民活動グループの気づきや社会への提案を紹介し、研究活動のコラボを進めてみるのも良いのではないか。
- ◇異業種による、地域課題への連携は、公益を担うという点で目的は合致していると思います。それぞれの状況を知ること、意見交流も含め、活性化のためにさらに活発になるようにと期待します。このつながりの重要性は、伝えるチカラのイベントでも多くの意見もありました。推進していくうえで、合意、共有するなかに市民へも伝わる機能がサポセンとして求められていると考えます。
- ◇近年、企業では地域貢献の意識が高まり、模索しているところが多いので、サポートセンターの存在アピールと固定化しない交流イベント等で連携づくりに一層の広がりを期待する。
- ◇営利セクターとの連携は、今後広げていくとよいだろう。期待する。
- ◇「大学生にイベントの参加を呼びかけているが、高い関心を誘うには至っていない。引き続き、若い世代との交流促進に向けての工夫やしかけが課題である」というならば、大学の入学式やサークルの新入生歓迎式典などに出張してサポートセンターの活動の紹介をするのはどうでしょうか。
- ◇大学含め各セクターは、地域社会貢献を模索していますので、各セクターの掲げる主要目標を調査し、各セクターと連携する企画も必要でしょう。

I-3	連携の翼をひろげる（市民活動支援の重層的な展開）	項目評価 (A・B・C・D)
①	コミュニティ関連施設との連携により市民活動支援の地域展開を促進できたか。	A1/B6/C7
②	県内の市民活動支援施設との連携を通して人的交流が図れたか。また、他の市民活動支援施設の課題やニーズから支援のあり方を学んだか。	A3/B11/C0
③	行政や地域の専門機関との連携を促進したか。	A4/B7/C3
総合評価 (A・B・C・D)	A=2、B=13、C=0、D=0	
委員のコメント（提案・意見等） ○は良い点、●は問題点、●は課題、◇は提案・希望など		
<p>(①について)</p> <p>○武蔵浦和コミュニティセンターとチラシセッションを通して、市民活動団体を支え育てていく努力が見える。</p> <p>○●コミュニティ施設との連携は始まったばかりで「<u>施設管理</u>」→「<u>市民活動支援</u>」への意識改革はまだ先の話かもしれないが、意見交換や人的交流が実現できただけでも、大いなる前進である。利用者の感覚的な感想に過ぎないが、コミセンや図書館の雰囲気は少し変わったかなという印象がある。(掲示が見やすくなったとか、説明がわかりやすくなったとか) これを成果と呼んでもいいのではないかな？</p> <p>●コミュニティ関連施設との連携に関して、<u>市民活動支援室がもっと関わる必要がある</u>のではないかな。</p> <p>●<u>今後どう進めていくのか見えていない</u>。</p> <p>◇さいたま市の捉え方として、<u>コミュニティ関連施設の報告書を基に戦略づくりの再考を提案</u>します。</p> <p>◇<u>コミュニティセンターのサポセン的機能はこれからの取り組みだ</u>と思う。まず行政がしっかり位置付けて広報してほしい。庁内では明確なのだろうがコミュニティセンター現場ではまだまだ。</p> <p>(②について)</p> <p>○県内施設間のネットワークの基盤が作られたのは評価できる。</p> <p>○むしろサポセンは先進事例としての先輩の役割を果たしているのではないかな。</p> <p>○他都市の手本となる運営をしていることは明確で、今後もリーダーとして運営手腕が期待できる。</p> <p>○県内の他市町村との連携は、高く評価できる。</p> <p>◇今後も県内外の市民活動支援施設職員との継続的な交流を図ってほしい。</p> <p>◇<u>他都市の事例から本施設が学んでいることは何か知りたい</u>と思います。</p> <p>(③について)</p> <p>○ぬり絵を市内12小学校に募集し、反応が820枚あったこと、ぬり絵の展示を浦和駅に貼布することで、市民活動に縁のない市民の眼にもとまり、アピールできている。</p> <p>●<u>行政や地域の専門機関に、社会福祉協議会(地区社協)や公民館などは視野にない</u>ということでしょうか。</p>		

課 ◇もっと拡大できる可能性がある。但し運営側の負荷もあり着実な進め方なのだと感じている。

(全般について)

○関連施設、支援施設、行政機関等の連携が図られたと思います。

○施設から外部への連携促進ができた。

○課 他の支援施設との連携には積極的に取り組んでいるが、行政との連携には工夫が必要。

○問 ◇コミュニティセンター・県内の市民活動支援・障害総合支援センター等との各種連携・企画の活動は、充実してきたと思いますので、更なる連携強化を望みます。しかし、まだ他の関連施設（公民館等）や団体（自治体・社協等）との連携が不足しています。必要あれば、積極的に協力をいたします。

○課 ◇コミュニティ施設との連携において、サポートセンタースタッフの努力は認められる。行政との連携については、行政側がより積極的に対応する必要があると思います。団体運営の課題である会計税務、労務、行政手続きについて、それぞれ「会計士・税理士」「行政書士」「社会保険労務士」などの専門家の協力による定期的な相談会を開催したのは、とてもよいことで、各種の専門職の団体が社会貢献活動をばらばらにおこなっていますので、サポートセンターがハブ的な役割を果たせば、より効果的になるかと思しますので、引き続き、専門職の団体の幅を広げてください。(行政との連携がBで、その他はAで全体としてB、行政側の対応の強化が必要かと思います)

課 ◇コミュニティ関連施設職員間の連携に少し課題があるが、県内外の施設や行政関係者の視察受け入れや研修を継続し、ネットワーク構築に引き続き努めていただきたい。

◇県内、市内といっても広域な範囲であるなか、様々な取り組みを発信されてきたこと、意見交換等は重要なことであったと考えます。人的な交流から得ること、地域でのニーズから学んだこと等を、連携促進や、運営に生かしていくこと、当事者が集まりやすい場での市民団体への支援、市民団体が増えていくことへの支援を今後も大切に検討をと期待しています。

◇コミセンと中央図書館とは、共同企画など、もっと連携できないか。

◇「図書館友の会」などの組織との連携はできないか。

I-4	協働の翼をひろげる（市民と行政のそれぞれの役割を深める）	項目評価 (A・B・C・D)
①	業務や施設運営において、市民活動支援室との情報共有に努めたか。	A5/B9/C0
②	業務や施設運営において、行政各部署との協働推進を図ったか。	A2/B9/C3
③	上記項目で生じた協働の問題に取り組んだか。また政策提言を行ったか。	A1/B6/C7
総合評価 (A・B・C・D)	A=2、B=11、C=2、D=0	
委員のコメント（提案・意見等） ○は良い点、 ● は問題点、 ■ は課題、◇は提案・希望など		
<p>(①について)</p> <p>○「条例の合同研修」や「市民活動ヒアリング」「イベントでの連携・協力」等、市民活動支援室との“協働”が進んでいる証左であり、評価できる。</p> <p>○忙しい中ではあるが、市民活動支援室との交流もしっかりとおこなわれているように感じる。</p> <p>○緊密な連携が取れていると思う。</p> <p>○互いに顔の見える関係ができています。情報の共有ができていくことがうかがえます。</p> <p>○情報の共有ができ、今後につながる連携ができた。</p> <p>■ 職員アンケートに<u>災害時のBCPへの懸念</u>があったが大丈夫か。</p> <p>(②について)</p> <p>○さいたま市の各課と市民活動団体のコラボがうまく機能しはじめたように感じる。</p> <p>○◇健康増進課が関わった「がん闘病記」の取り組みは評価できる。こうした取り組みを色々な分野に広げられないか。</p> <p>■ 行政各部署との協働はごく一部であり、<u>更に他部署と連携を図ることが必要</u>と思う。例えば、コミュニティ課、総務課、情報課、住宅課等。</p> <p>■ ◇<u>団体から持ち込まれた企画を行政に伝える力が必要</u>。団体のもつ的確な地域ニーズを関連行政機関に繋ぐハブ機能を果たしていると思うが、より力をつけてほしい。</p> <p>◇行政各部署とも関連の多い“市民活動の分野”なので引き続き連携・協働に努めていただきたい。</p> <p>◇市役所内部の協働に関する調査（埼玉県から依頼が毎年あるはず）の結果をサポセンで掲示したらどうか。協働は無理に行うものではないが、各課に競争意識を持たせることも必要ではないか。</p> <p>(③について)</p> <p>■ 「政策提言を行ったか」と問われれば「行わなかった→C」と評価せざるを得ない。</p> <p>◇政策提言には運営協議会も参加する必要はないか。（条例では越権か？）</p> <p>◇さいたま市の行政データを市民団体活動に活かす仕組みが必要。</p> <p>(全般について)</p> <p>○合同研修の企画、イベントに行政をゲストとする企画など、協働しやすいように工夫していることに、企画力、運営力の強さを感じる。</p> <p>○資料から、管理者から、多くの実態が示され運営されていることがわかります。実際の業務につ</p>		

いては、よくわからないというのが委員として思うところで、書面における情報の発信、受信の共有、連携はできているように読み取れます。

- 課** 市民活動支援室と指定管理者の情報共有と協働はなされているが、行政との協働は機能しているとは思えない。
- 課** ◇限られた人員、多くはない機会をとらえて努力する姿勢を評価する。行政職員に「知ってもらう」段階をようやくクリアしたとことというべきか？次のステップとして一緒に考えてもらうためには、「市民活動支援」が行政各部署にとってどんなメリットがあるのかを明確に提示し、理解を得なくてはならないだろう。また、「指定管理者制度」の課題、市民との協働の推進については、専門家の協力も仰ぎつつ具体的な政策提言をする準備を進めるべきである。
- 問** 本施設と行政との協働の実績が表れる項目と受け止めます。市民活動支援室との関係や行政内部の指定管理者制度の認識・課題がどのようなものか情報を得ていないので判断がつかないこともあり (C) 評価としました。
- ◇市民活動支援室との協働は、十分に行われていると思えます。支援室コメントにある「指定管理者意識の共有について」は、スタッフ研修で行われていると思われませんが、このスタッフ研修も運営委員や関係者に公開していいと考えます。行政各部署との連携は、各主管部門の主要事業とサポートセンター企画と連携できるように模索すべきと思います。
- ◇市民活動推進委員会でサポセンスタッフに発言の機会が与えられることが望まれる。理想としては委員としての参加であるが、審議事項に応じて意見を述べる機会を設けることにより、委員会の議論がより実質的になるのではないか。
- ◇市民全般が市民活動支援室の機能、関連部署等の情報があるなど、知ることへのより一層の検討も必要なことだと考えます。
- ◇各種行政計画や行政のビジョンについて、市民との協働が必ず項目として掲載されるようになってきているので、委員会参加やパブリックコメント、または、提言を提出する活動を、関係団体とともに行うとの活動も必要なのではないかと思います。
- ◇市民活動支援室は、各種行政計画や行政のビジョンの策定、パブリックコメントの募集についての情報をサポートセンターや、サポートセンターを通じて市民団体に伝えるようにしてください。

Ⅱ-1	協働管理運営の仕組み	項目評価 (A・B・C・D)
①	運営協議会は、市民と行政の協働により運営され市民の意見を反映させたか。	A3/B6/C5
②	利用者懇談会は、参加した市民の意見を運営協議会に諮ったか。	A3/B6/C5
③	連絡調整会議は、市民の意見に迅速に対応し、業務や運営に反映させたか。	A4/B8/C2
総合評価 (A・B・C・D)	A=2、B=9、C=4、D=0	
委員のコメント（提案・意見等） ○は良い点、問は問題点、課は課題、◇は提案・希望など		
<p>(①について)</p> <p>○運営協議会の会議についての改善は評価できる。</p> <p>○協議会では自由闊達な意見交換が実現できていると感じている。</p> <p>問 運営協議会について、<u>指定管理者からの説明が長く、議論する時間が少ない。</u></p> <p>(②について)</p> <p>○“利用者の意見を反映した運営に努めよう”という姿勢を今後も堅持していかなくてはならない。現に、(利用者意見の反映の)のしくみを使い、運営協議会メンバーも、業務に携わるスタッフも努力していると感じている。</p> <p>問 現状では「<u>利用者の意見を吸い上げる</u>」システムとして十分に機能していない。</p> <p>問 利用者懇談会の参加が少ないのは、<u>運営協議会委員の一部(希望者)と一般参加者(呼びかけ)のマッチングができていないため。</u></p> <p>課 利用者懇談会の<u>方法について検討が必要。</u></p> <p>課 協働管理の中の3つの内「利用者懇談会」が担う役割の重要性を再認識しました。<u>さらなる方法の工夫改善が求められます。</u></p> <p>課 利用者懇談会は、よい話し合いであったと思いますが、<u>多くの参加者を得るためには、そのアプローチなど今後も継続課題だと考えます。</u></p> <p>問 ◇利用者懇談会の参加者が少ないのだから<u>市民の意見が広く反映されているとは言えない。参加動機をくすぐる懇談会を企画できなかった委員として反省している。多くの意見を集めるためにイベント時のアンケートを活用するのは有効だと思う。</u></p> <p>問 ◇②が参加者を集められていないことには、<u>利用団体側の意識の問題</u>もあろうが、<u>参加しにくい形になってはいないか、再検討の余地有り。</u></p> <p>◇利用者懇談会の参加数(利用者)や意見(利用者)の少ないことを必要以上に心配する必要はない。</p> <p>◇サポートセンターへの利用者の意見や要望は、利用者懇談会以外のルートで出されることが多いことから、<u>利用者懇談会の目的を見直す時期に来ているのではないか。</u></p> <p>◇市と市民団体が協働管理運営するサポートセンターであるなら「<u>利用団体の義務</u>」として<u>提案・発言する機会を提供</u>してはどうか。</p>		

(③について)

- ◇大きな問題はないようだ。今後も市側は人事異動などで「属人的な対応」が発生しないよう業務の継続性に心掛けてほしい。
- ◇その他の意見収集として、行政が行っている「市民意識調査」から市民提言・意識を読み取ることや利用を全く考えていない層（個人・団体）からも考えることも念頭においていいのかとも。資料の読み込みが足りないせいか連絡調整会議での動きが見えないところがあるので情報提供ください。

(全般について)

- 「運営協議会」や「利用者懇談会」「連絡調整会議」のしくみがあること自体が重要。
- 利用者懇談会部会と評価部会への運営協議会委員の参加が増加したことは好ましい。
- サポートセンターの運営については、真摯に取り組まれていると評価します。
- 各協議会が機能させることができた。
- 問** 運営、あり方については目的が明確であったと思います。しかしながら、市民活動という、民の意識が強く、指定管理者制度、支援室の実態が、まだまだ周知されているとは思えないなか、さいたま式協働運営について、委員として知識の不足を反省しています。
- 課** ◇利用者懇談会部会、評価部会などでの取り組みもあり、自ら考え動く運営協議会へと変わろうとしていることは評価できる。2期も最終年となる次年度に向け、新たな課題も見えてきており、運営協議会は協働運営者としての自覚を持ち、市民活動支援の中核拠点としてのサポセンのあり様を、市民の声を代弁し、真剣に議論する場となることが求められる。
- 問** 基本的なことであるが、運営協議会が珍しい例として市民活動支援室にかかわりなく設置されていることに違和感がある。
- 問** ②が「成果不十分」であれば、必然的に、①も「不十分」とせざるを得ない。
- 課** ◇利用者懇談会は、懇談会の開催のみを成果にするのではなく、相談対応記録から主要な利用者意見への対応・解決も成果と考えます。また、参考になる評価を次年度に生かす必要があります。具体的に生かされた評価（達成・未達）を提示されてはと思います。

II-2	行政の指定管理者との連携	項目評価 (A・B・C・D)
①	各所管課から市民活動サポートセンターへの相談に対応し、各所管課と市民活動団体との協働を推進したか。	A1/B5/C8
②	各所管課に対して、市民活動サポートセンターのイベント等活動内容を広めたか。	A1/B8/C5
③	各所管課が事業に係る展示等で市民活動サポートセンターを利用する際にセンター設置目的等について理解するよう説明を尽くしたか。	A2/B6/C6
総合評価 (A・B・C・D)	A=0、B=8、C=7、D=0	
委員のコメント（提案・意見等） ○は良い点、問は問題点、課は課題、◇は提案・希望など		
<p>○課 市民活動支援室の働きかけで各所管課の理解度は少し前進したように思うが、<u>連携には至っていない</u>。</p> <p>○◇ イベントの協力を市民活動支援室から高校教育課に要請したことはとても効果があったと思う。管理者ではなく、<u>市民活動支援室からの働きかけの影響はとても大きいので、他の所管課にも働きかけられるのではないかと期待する</u>。</p> <p>問 <u>せっかくの市民活動の場だが、各所管課がうまく使っていない</u>感じがする。</p> <p>問 課 全体を通してこの項目は<u>支援室の頑張りだけでは成果が上がらない</u>。協働ネタが原課から上がってこないのは残念である。<u>条例では見えないサポセン文化を知らしめる工夫努力が必要</u>(運営協議会も一緒に考える)。将来首長が替わったら「ガラッと変わる」のは文化ではない。</p> <p>課 <u>重要な活動支援の拠点の市民サポートセンターですが、その周知を根気よく続けることが必要だと、委員をさせていただいての実感です</u>。</p> <p>問 小項目は「A」ふたつと「B」ひとつだが、<u>全体的な成果と手応えが感じられないので「B」とした</u>。</p> <p>課 ①について、<u>各所管課と話題を共有する時期</u>はどうなっているのでしょうか。事業をスタートする<u>年度当初が重要でかつ適切</u>では。また、<u>9月に次年度計画立案や議会等の指摘も受ける時期</u>をとらえてはどうでしょうか。<u>どう働きかけるのかの戦略の明確化が必要</u>と考えます。</p> <p>課 ◇より<u>積極的な行政各部署への働きかけが必要</u>である。<u>職員向けのセミナーや勉強会を通して、「協働のテーブル」を活用した事業立案や職員の研究グループなどを設置するなどの働きかけをしていただきたい</u>。</p> <p>課 ◇<u>協働テーブルの開始など、具体的な試みへの反応がまだ、ないようなのも残念</u>です。<u>協働への支援は、どのような場面でも、それらの情報を生かせるような送受信、発信が必要</u>です。<u>現時点での評価を再点検され、より一層の効果を発揮できるよう、期待しています</u>。</p> <p>課 ◇都市局みどり推進課が事務局をつとめる「さいたま市みどりの祭典」に、昨年から都市計画課が出展している。<u>縦割り行政を脱して、異なる部署が協力し合う関係をなして</u>おり、評価できる。こうした取り組みを、<u>市民活動支援室と他部署の間でも、もっと進められれば</u>いいと思います。</p> <p>問 ◇市民活動支援室は、市の職員研修において、“市民活動”が行政運営の中で大切な要素であり、“市民と行政との協働”こそ、当市の発展に不可欠である旨説いている。しかし、<u>職員の多くは担当部局を除き、市民に一定の距離がある</u>。ある意味仕方のないことだが、<u>研修を重ねたり、担当部局を経験する中で必ず理解は進む</u>。</p>		

課 ◇ I-4 と同様。各所管課の市民活動についての理解をさらに高める必要があると考えます。行政がセンターに来ればよいのですが、そこまでの機会がないように見受けられます。職員研修などの機会に、サポートセンターの職員が活動紹介や協働の考え方を説明する機会を設けるなどの工夫をするのはいかがでしょうか。

課 ◇ 協働の翼でもコメントしましたが、積極的（特に各所管部門からの申し出）と協働することにあります。各所管部門からの申し出に、サポートセンターの開催内容にそぐわないため断るとありますが、運営委員会で協議・説明等あったのでしょうか。小さなことでも協業・連携の第一歩を踏み出すことが、大きく躍進すると考えます。

◇ 市民と行政との協働について橋渡し・相談は可能と思われるので期待したい。

◇ 協働のテーブルで、市民と市役所職員の間で活発な意見交換が行われることを期待する。

◇ 協力、連携をこれからもっと推進できると思う。